

学習成果を発表する機会のデザイン

Créer des opportunités d'apprentissage

渡邊 佳奈

WATANABE Kana
Université de Fukuoka
fbkana@fukuoka-u.ac.jp

0. はじめに

本稿の目的は、学習成果を発表する機会をデザインする意義と効果を検討することである。この検討により、学習成果を発表する機会に教員がどのような形でかかわるべきか明らかになる。

具体的には、筆者が非常勤講師として担当する高校のフランス語中級クラスで「学習成果を発表する機会をデザイン」した経過と結果を分析する。

この高校は平成 17 年から総合学科に再編された。総合学科とは、多様化する高校生の能力や進路に対応するために設けられた制度である。必修科目と選択科目の合計 80 単位以上で卒業資格が得られる。この高校では、フランス語は外国語教科の選択科目として置かれている。年間の授業数は、年度によって異なるが、初級は 50 分授業が 61 回程。中級は 50 分授業が 56 回程度である。

受講者数は、年度によって変動がある。しかし、例年、フランス語初級の受講者数は 20 名から 40 名程度。フランス語中級のクラスは 7 名から 8 名で構成される。初級は 2 年次から選択可能であり、中級は初級の 2 単位を取得した生徒、すなわち 3 年生のみのクラスとなる。

1. 学習成果発表会

1.1. 学習成果発表会とは

福岡県立福岡講倫館高等学校では、年末に 800 名収容可能な地域の文化センターの大ホールを借り、開講されている多様な科目の学習成果を発表している。この学習成果発表会のプログラムは総合学科の特徴をよく表している。簡単に紹介すると、パイオニアゼミ (3 年次)、総合的な学習の時間 (2 年次)、産業社会と人間・プレゼンテーション博多学 (1 年次)、観光学 (授業選択者)、ミュージカル入門 (授業選択者)、外国語 [フランス語、中国語、ハングル] (授業選択者)、ビジネスマナー (授業選択者)、キャリアプラン (授業選択者)、看護基礎医学 (授業選択者)、ファッションショー (授業選択者) の発表がある。このプ

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2013

プログラムを午前と午後同じものを行い、客席には午前は出演者と舞台スタッフ以外の2年生と3年生、午後は1年生と保護者そして一般の人たちが座る。

1.2. 過去5年のフランス語学習成果発表のプログラム

平成20年度より始まったこの高校主催イベントにフランス語中級のクラスは毎回参加している。1年目は「カフェでの1シーン」(以下①とする)、2年目は「Gâteau au chocolat の作り方」(以下②とする)、3年目は「Mon voisin Totoro」(以下③とする)の吹き替え、4年目は「レストランでの1シーン」(以下④とする)、5年目は「Cérémonie de mariage」(以下⑤とする)という演目で参加した。

①②④⑤は筋書きから作るという点で、準備過程はほぼ同じである。③のみが宮崎駿監督の『となりのトトロ』というしっかりとした骨組みがあるという点で他の年とは異なる。

本稿では③④⑤を取り上げる。①②④⑤は多かれ少なかれ互いに似た演目だからである。

2. 学習成果発表に向けての準備

2.1. 準備期間

フランス語は初級と中級ともに、50分授業を2限続けて行う時間割となっている。中級の生徒たちの学習成果発表会に向けての準備は、毎年10月上旬から始まる。例年、発表日は12月中旬過ぎに設定される。10月から発表までの期間中、3年生も後期第1中間試験と後期第2中間試験を控えている。したがって連続する2限のうち1限は、通常授業にあてることとなる。授業内の発表に向けての準備期間は、昨年度は50分×8回、合計6時間40分であった。

2.2. ③「Mon voisin Totoro」の吹き替え(発表設定時間7分)

平成17年に総合学科に改編される前は被服科が設けられていたこともあり、ファッションデザインを選択しているフランス語中級受講者は優先的にファッションショーの方に参加する。この年は3人が抜け、4人での発表となった。

テーマの選択もシーンの選択も生徒たち自身が行った。生徒たちに選択を託すというのは、6時間40分という準備期間では足りないように思えた。しかし、「生徒たち自身が決めた好きな題材」のため、台詞起こしに関しては、1人の生徒が「自分が自宅で行い、次週には提出する」と名乗りをあげた。台詞練習では、テーマの選択理由の1つでもあった「皆が知っている」という点が功を奏し、意味の確認にはほとんど時間はかからなかった。当初は、教科書を確認しながら読んでいる日頃の姿から、映像とスピードが合うのか心配だった。しかし、通して7回目には映像とスピードはほぼ一致するまでになっていた。

2.3. ④「レストランでの1シーン」(設定時間6分)

この年の生徒たちはホテルの専門学校、調理専門学校、製菓店に就職、海外に留学という進路であった。つまりテーマの決定は進路を意識したものだった。

進行役を女子生徒2人が担当し、男子生徒4人が演者となった。カップルが

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2013

レストランでデートをし、最後に彼氏がレストランのソムリエールをデートに誘うという設定である。

進行役の女子生徒が発表後に準備経過を含めた感想を次のように書いている。「最初はあまり内容がまとまらず大変でしたが、練習を重ねていくうちにだんだんと形になってきました。本番ではスムーズにやることができ本当に良かったと思います。また、最後の場面で見ているお客さんがこちらのねらい通り笑ってくれたのでうれしかったです」

2.4. ⑤「Cérémonie de mariage」(設定時間 5 分)

この年は女子生徒 7 人の中級クラスだった。10 月にテーマを決める際、女性のみということを活かそうということになった。7 人のうち 2 人がファッションショーに出ることになっていたが、アイデアはこのうちの 1 人から出た。理由はファッションショーのテーマの 1 つが「ウェディングドレス」で、被服科でドレスを製作しているからだった。テーマを決めた後は、各々が日本とは異なる点を中心に本やインターネットで情報を交換し合う形をとった。

脚本 12 月 19 日 学習成果発表会 フランス語中級 『Cérémonie de mariage』

進行役：今日 12 月 19 日は、石崎さんと Monsieur Cousin の結婚式です。フランスでの結婚は、必ず市役所で婚姻のセレモニーを行わなければなりません。(中略) 教会での式は行うか行わないかは自由であるのに対して、市役所でのセレモニーは、市民の義務です。さて、セレモニーが市長さんによって始まるようです。

市長 : Bonjour. Nous sommes aujourd'hui réunis ici dans la mairie de Bordeaux pour célébrer le mariage de Monsieur Cousin et Mademoiselle Ishizaki. Monsieur Cousin, voulez-vous prendre pour épouse Mademoiselle Ishizaki.

新郎 : Oui, je le veux.

(中略)

市長 : Je vous déclare unis par les liens du mariage. Signez le registre. Félicitations !

(中略)

進行役：市長さんは二人の出会いが気になるようですね。その前にせっかくなのでフランスにおける結婚にまつわるお話を少ししたいと思います。皆さん PACS というフランスの制度をご存知でしょうか？

PASC とは・・・ Un pacte civil de solidarité (Pacs) est institué en novembre 1999. Le Pacs peut être conclu par 2 personnes majeures, de sexe différent ou de même sexe qui ne se marient pas. (中略) Le Pacs produit également des effets sur les biens et en matière fiscale. En revanche, la conclusion d'un Pacs ne produit aucun effet sur le nom. では、二人の出会いがどんなものだったのか見てみましょう。À l'aéroport de Fukuoka.

新郎 : Oh, pardon, Mademoiselle.

新婦 : C'est pas grave.

(中略)

新郎 : J'habite dans le dix-huitième arrondissement de Paris. Si vous voulez, je pourrai vous montrer la ville.

新婦 : C'est gentil ! Alors, est-ce que je peux avoir votre numéro de téléphone portable ?

新郎 : Oui, bien sûr. Est-ce que vous êtes prête ?

新婦 : Non, attendez un peu. Allez-y.

進行役：このようにして、2 人は出会い、結婚という道を選びました。2 人の歩む道が素敵なものとなりますように。

3. 学習成果発表会の効果

3.1. 双方向型授業の実現

現在、教育現場では双方向型授業が推進されている。双方向型授業のメリットは少なくとも2つある。1つ目は生徒の理解度や到達度を確かめながら授業を工夫できることである。2つ目は教育の本来の姿である生徒が主体的に学習する能動的授業を実現できるということである。

③「Mon voisin de totoro」の吹き替えでは、台詞を練習している際、生徒の理解度を確かめることができる。文の構造がわかっていない場合、読みの区切りがおかしくなる。④「レストランでの1シーン」や⑤「Cérémonie de mariage」の脚本作りでは、和文仏訳の実践の中で、日頃の授業の理解度や到達度は如実に表れ、教員にとっては、復習すべき課題の材料が提供される。

2つ目の、生徒による主体的、能動的学習が実現できるのは、発表会で発表を行うのは教員ではなく生徒だからである。この環境は生徒たちを主体的にさせる。自分たちで決めていかなければならない状況は、決まらないことは何が原因か、少なくとも何が決まらないのかは目の前に存在する。これを教員に話し、教員は助言を与える。必然的に生徒たちは能動的にならざるをえない。

3.2. 特惠効果の利用

特惠効果というのは「得意な面を生かして学習する」ということである。限られた時間で、生徒たちは必要な場合は脚本作りから、配役の決定、小道具の作成、プレゼンテーションの練習をしなければならない。その状況下では、フランス語が苦手な生徒と得意な生徒、誰が何を担当すれば捗るのか、自然に生徒たち自身で決めている。例えば、ファッションショーの方に出演する生徒たちはパワーポイントの作成や小道具作りに精を出す。プレゼンテーションの作成中、フランス語についての疑問がある場合、教員かフランス語が得意な生徒に尋ねる。情報処理に関する質問の場合には、わかりそうな生徒に尋ねる。日頃の授業では、他の方面で生徒たちが何を得意としているか知る機会は少ない。生徒たちの得意なものを知っておくことは、発表会の準備中では、得意なものにそれぞれが関わるように促すことができる。

3.3. 診断的評価、形成的評価、総括的評価を総合した評価

診断的評価は、学習の前提となる学力や経験などを把握するために行われる。学習成果発表会においては、脚本作りや台詞に取り組む姿の観察により、生徒たちの1年半での習得度を計ることができる。形成的評価は授業過程で実施される。これは、練習を積み重ねていく中で次の授業までにどれ程上達しているかによって計ることができる。統括的評価は教育成果の評価に用いられる。これは発表会を終えた時点で実施可能である。通常の授業と異なるのは、発表会を通しての評価は評価材料が一貫して同じという点である。評価する側にとっては、各々の生徒が3ヵ月でどれくらい上達したか判断しやすい。

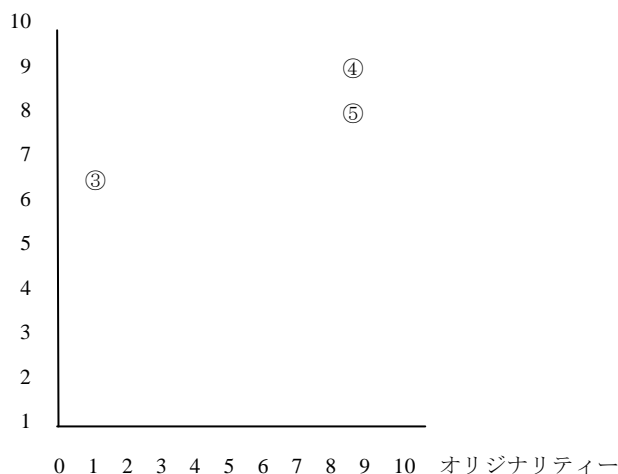
4. 比較

3年間の学習成果発表会を比較し、表にしてみよう。縦軸を「観客の反応」

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2013

とし、横軸を「オリジナリティー」の有無とする。最後まで観客の反応が持続している場合を縦軸の 10 とする。全てがオリジナルの場合、横軸の 10 とする。

観客の反応



③「*Mon voisin Totoro*」の吹き替えはオリジナリティーを加える必要がない。脚本から作る④の「レストランでの 1 シーン」や ⑤「*Cérémonie de mariage*」と比べると、時間の余裕が生まれる。しかし、このテーマを選んだ理由「多くの人が知っている」ことが、観客を惹きつける時間が短くなる可能性に繋がることが分かった。この可能性を低くする対策として「*Mon voisin Totoro*」の脚本にオリジナリティーを加えることが考えられる。例えば、吹き替えの後、「私の家庭だったら」というような別の物語を展開するのも面白いかもしれない。

3 年生の学習成果発表会を比較した結果として、学習成果の機会をデザインするという点においては、生徒たちの持っている個性を自由に描ける脚本作りから始まる題材の④の「レストランでの 1 シーン」や⑤「*Cérémonie de mariage*」の方が観客の反応が良かった。出演者が観客の反応にアドリブで応えるというような場面も見受けられた。反対に「*Mon voisin Totoro*」のように吸収すべき情報が多いものは、教材もしくは副教材に向いている。

5. 最後に

学習成果を発表する機会をデザインするには、生徒たちの個性の反映を念頭に置くことが大切である。教員の嗜好は抑え、彼らが望むものが形成されるようにデザインを重ねる。この行為は、生徒たちにフランス語を使うのが楽しいという感覚をもたらす。生徒たちが卒業する際に、プレゼントしてくれた色紙に「学習成果めちゃくちゃ楽しかった。専門学校でもフランス語を勉強して 2 年か 4 年後にフランスに行きます」「フランス語、楽しかったです。発表会での劇とか本当によかったです。将来イタリアだけじゃなくてフランスにも行ってみたいです」「製菓専門学校に行っても、フランス語がんばります」というメッセージが見られた。「フランス語が楽しいという感覚」とともに彼らが次のステージに進むことができれば、学習成果を発表する機会のデザインは成功したと考えてよい。